

Once upon a time in Utsunomiya

一枚の絵葉書から 石井敏夫コレクションより 第25回

蒲生神社に参拝する人々



蒲生神社

八幡山の入口に鎮座する蒲生神社は、一九二六(大正十五)年創建。高山彦九郎、林子平とともに「寛政の三奇人」と並び称された偉人蒲生君平の遺徳を讃え、その功績を後世に伝えるために「蒲生会」の献身的な努力と、県民の浄財によってつくられた。

蒲生君平は一七六八(明和五年)、宇都宮新石町(現小幡二丁目)で油商を営む福田家に生まれた。のちに祖先が武将蒲生氏郷であったことを知り、崇敬の念を込めて自ら蒲生姓を名乗るようになったという。生来の学問好きで、十五歳のとき鹿沼の儒学者鈴木石橋

の麗澤塾に入塾。二十歳のころ江戸に出て山本北山に学び、曲亭馬琴、本居宣長らの知遇を得た。また、水戸学の藤田幽谷に出会い生涯の友となった。

君平の名前を不動のものにしたのが、天皇陵を調査した『山稜志』である。河内、和泉、摂津をはじめ佐渡にいたる歴代天皇陵九十二陵をめぐる考証したもので、「前方後円墳」の名称はこのとき考案された。

このほかにロシアの進出に備えた国防論『不備論』、朝廷の制度をまとめた『職官志』を著した。一八二三(文化十)年、妻に看取られ四十六歳で没。墓所は桂林寺と東京谷中の臨江寺にある。

「蒲生会」が結成されたのは一九二二(大正)年。蒲生君平九十九年祭が行われた際、君平を主祭神とする神社の創建を決議したことに始まる。元宇都宮藩主戸田忠友を会長に、政財官民を横断する有志が集まり、資金募集に奔走。二三(大正十)年三月三十日は総代、男爵鮫島重雄ほか八十五名連名の下、神社創建願を提出した。創建の動き



社殿の建設予定地と勅旌碑

はこれ以前の二八八二(明治十五)年ごろにもあったが、資金不足のため二荒山神社境内の石神建立のみ実現。「蒲生会」に寄せられた期待の大きさが窺い知れる。

一九二三(大正十二)年十二月より市民総出で地ならし工事が始められ、翌年六月には社殿が着工。二六年七月十六日竣工した。参道入口の大鳥居は栃木県出身の力士栃木山が奉納したものである。



蒲生神社へ続く石段と大鳥居